

# 大田で漁師の道を歩む 吉崎拓さん



大阪からUターンして1年  
水揚げにも慣れた様子  
の吉崎さん

**魚が好きで漁師の道へ**  
「大学を卒業したらサラリーマンになるのが一般的ですが、『やっていたいけるのか?』と不安でした。それなら好きな仕事を選んだ方がいいと考え、漁師の道を選びました」と吉崎さんは話します。

「魚が好きだったから」と漁師の道を選んだ吉崎さんは、大学卒業後に大田市へUターンしてきました。

大田市で働きかけとなったのは漁業の就業フェアでの海運丸の漁師との出会いです。それまでの荒っぽい漁師のイメージが一新されたと言います。

「フェアの時もそうでしたが、海運丸の漁師の人たちはみんな明るいかたばかりです。仕事の時はまじめですが、それ以外ではいろいろ話してくれます」とうれしそうに話します。



**大田市では産業体験を通じて漁師を目指す人が増えています。**  
大田市では(公財)ふるさと島根定住財団が行っているUターンしまね産業体験事業を利用し、漁師を目指す人が増えています。

平成25年度は1人が利用しましたが、平成26年度は7人、平成27年度は6人が利用し、近年、増加傾向にあります。また漁師を目指す若者の割合も高くなっており、主に20〜30歳代が利用しています。若者が漁師を目指すことで漁師の高齢化にともなう後継者問題の解消が期待されます。

現在、大田市では平成27年度からの利用者、大田市の産業体験者定着支援事業の利用者を含め、9人が産業体験を通して一人前の漁師を目指して奮闘中です。



## 漁師を育てる

「昔の漁師の教えは頭ごなしの物言い、若い人が付いてこなかり漁師の数が減っているのが現状です。今はそういう時代ではないので、人員確保のためにも船主が頭を切り替えなければなりません」と海運丸の土江利之船長は話します。

父親と一緒に漁師をしていた土江さんは、昭和56年に海運丸を建造しました。今年で漁師歴42年のベテランの船長です。海運丸では主に小型底引き網で漁を行い、5月中旬から8月にかけては小型定置網を共同運営しています。底引き網漁は4人で手が足りていますが、Uターンの吉崎さんを引き受けたことで指導役を1人付けて、海運丸は6人体制で漁をしています。

「昔は乗組員に『船に乗せてください!』と言われていましたが、今は船主が『船に乗ってください!』と頼む時代になりました。そんな時代の中、吉崎くんが大阪から来てくれて、本人の頑張りもあり1年が経ちました。彼が一人前になるように、しっかり育てるつもりです」と土江さんは話します。



この制度を利用した吉崎さん

「はじめのころは船酔いもしていたが、顔つきも体つきもすっかり漁師になった。仕事の覚えも早く、まだ大人しくしているが、これから行動にできれば大きな戦力になる」と話す土江さんは真摯に仕事に取り組み吉崎さんの姿勢に、これからの成長を期待している様子です。

まだ吉崎さんの漁師の道は始まったばかり。一人前の漁師を目指す吉崎さんと土江さんの奮闘は続きます。

## 産業体験者定着支援事業

**産業体験を通して大田への定住を**  
産業体験を通じた市内定住を促進することを目的とし、(公財)ふるさと島根定住財団の実施する「Uターンしまね産業体験事業」による助成金の交付を受けた者のうち、引き続き大田市において同業種の産業体験を行う場合、大田市にて助成します。

- ◆助成額
  - 12万円/月
  - ※実家等に居住する場合は6万円/月
- ◆助成期間
  - 3ヶ月以上2年以内
  - ※詳細は下記までお問い合わせください。

**お問い合わせ先**  
大田市役所地域振興課定住推進室  
☎ 0854-83-8029  
FAX 0854-82-5885

おおだの定住PRサイト  
どがどが 検索

## Uターンしまね産業体験事業

- 対象 農林水産業 伝統工芸 介護職等**
- ◆助成対象者
    - 県外在住のUターン希望者
  - ◆助成期間
    - 3ヶ月以上1年以内
    - ※伝統工芸は2年
  - ◆助成額
    - 12万円/月
    - ※県内に居住する親もしくは祖父母と同居する場合、または2親等以内の親族が受入先となり体験する場合は6万円/月
  - ◆親子連れ助成
    - 産業体験者のうち中学生以下の子どもを同伴し体験を行う者へ産業体験期間と同一期間、3万円/世帯・月を助成
    - ※詳細は下記までお問い合わせください。

## 体験期間満了後



**お問い合わせ先**  
(公財)ふるさと島根定住財団  
島根県松江市朝日町478-18 松江テルサ3階  
☎ 0852-28-0690  
FAX 0852-28-0692